

タフなスタイルを気負わずゆる〜く楽しみたい。

ライトニング

Lightning

2008 Vol.170 6月号 定価 ¥630

巻頭特集

Duty Life in Spring

ヘビーデューティ、アウトドア、ワークetc...

いつだって男前な
アイテムを選びたい。



Heavy

ショーツも無骨系。

過酷な状況にも耐えるアウトドスタイルをモチーフに、ほどよく街着として使えるアイテムが今の気分。ライトなアイテムでもディテールが語れるショーツは必須



春先のワークスタイル。

さり気なく昔ながらのワークテイストを持ったアイテムが旬。気負わず着られる街着にも、さり気なく男っぽいディテールをプラスしたチョイスがおすすめ



存在感のあるトート。

アウトドアバッグの代表格のトートバッグも使うたびに味が出る。または最初から味わいがあるモノを。シンプルだけどバッグ自体の存在感も大事にしたい

春夏は見せるブーツで。

ファッションが軽くなる春先だからこそ、あえて足元はヘビーデューティなフォルムでボリュームアップ。といっても素材やデザインは機能的なモノを選びたい



第二特集

ビッグサイズの誘惑。

大きいことはいいことだ。と誰が言ったか知らないけれど、世間なんでもメガブーム。そんなわけでライトニング的に世の中の「大きいモノ」に大注目!!





File#35

1974 NISSAN SKYLINE GT-X+RB26



↑真横からドライバーの位置を確認すれば、いかに鼻面の長いクルマであるかが理解できる



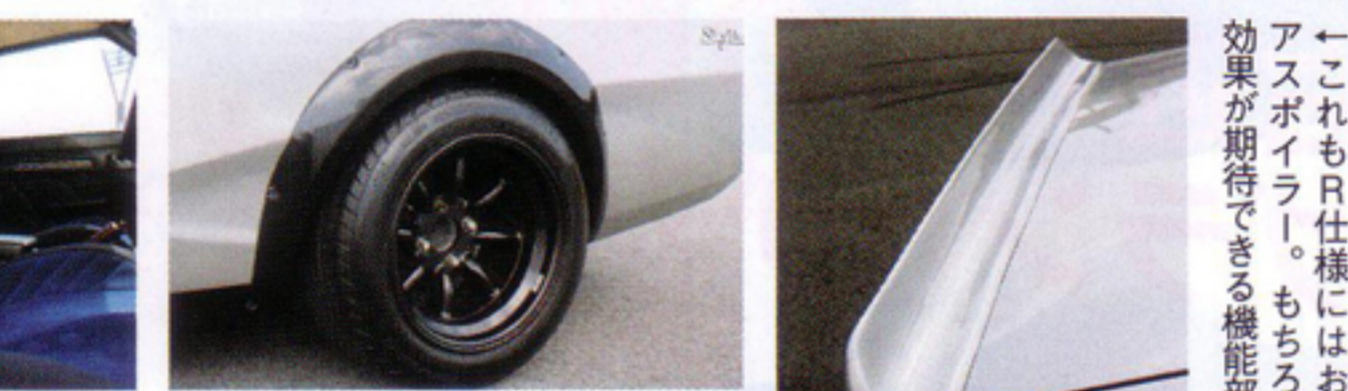
↑この「キツ」とらみつけたような目線がたまらない。バックミラーの映った時のインパクトも大きい!



↑ケンメリならではのググッと伸びたロングノーズにレースシーンではお約束のチンスポイラーを装着した姿が醸す独特の男臭い雰囲気がカッコいい



↑ウィンカー類をバンパーに組み込むデザインに、何となくアメリカ車の雰囲気がオーバーラップする



↑メーターパネルを含めて細部までR仕様でこだわったダッシュ周り。このシンプルさがたまらない

↑高級バケットシートも装着されている。これも大人向けの仕様のひとつだ



↑軽いクラッチをつないでからアクセルを踏み込めばそこは異次元! ケンメリが旧車であることを忘れてしまうほど新鮮で楽しい乗り物だ



↑ツインターボで武装したRB26は、ロッキーオリジナルのサクシオン&エキゾーストの取り回しが施されている

↑新車が発売された当時、このRアビユーにこれだけのファンがドキドキさせられたことだろう

↑これもR仕様にはお約束のリアスポイラー。もちろん十分な効果が期待できる機能部品だ

体的に語るのには簡単だ。ご覧のこの見るからにスバルタンなR仕様は、ツインターボで暴力的な加速を楽しめることももちろんだが、なんと驚くことにクーラーとパワステもしっかりと装備されているのだ。それらは最新のメーカー純正パーツを用い

た信頼性の高いもので、つまり夏の渋滞路や都心の狭いパーキングといったこの手のクルマが苦手とする状況においても何ら心配することはないのである。忙しい日常から離れて、昔を懐かしみながら特別な休日を通じた一人にお薦めの1台だ。

1957年に初代スカイラインが登場してから15年後の1972年、通称ケンメリと呼ばれるスタイリッシュなシリーズのニューモデルが登場した。GT-A、GT-Bで知られるS50系、通称ハコスカで一世を風靡したC10系に続いて誕生した4代目スカイラインだ。

た。もちろん今でもケンメリ人気は高く、ことGT-Rに関して言うならば、当時195台のみが市販されたという背景もあって、希少性はもちろん相場価格に見てもそれはあまりにも特別な存在となっている。しかし、いわゆるホンモノのGT-Rを買って乗り回すことは無理としても、限りなく同じスタイルにモデファイした2000GTハードトップを大人の遊び道具として、今の感覚で楽しむことは不可能ではない。もちろん個人的にそれを実現させることは難しいが、プロショップの手によって製作されたいわゆる、R仕様。はケンメリカスタムの王道ともいえる手法となっているのだ。

ケンメリのスカイラインというコピーで広くその名を知らしめた4代目は、瞬く間に大勢の新たなスカGファンを生み出すと同時に、翌年の1973年に2000GT-Rをシリーズ最高峰モデルとして追加することで、新たなスカG神話は頂点に達しようとしていた。

ここに紹介するのはそんなR仕様モデルの中でも特別だ。というのも、エンジンにニッサンのRB26DETというモダンな超ハイパワーモデルを搭載してあるからだ。もちろん公道車両で、プロデュースしたのは愛知県岡崎市にあるロッキーオートというショップ。国産旧車を中心に数々の大人向けスペシャルモデルを生み出している今話題のコンストラクターだ。

メーカにとつてのモデルチェンジは様々な意味で勇気のいることであるに違いない。もちろんこのケンメリの登場もその例外ではなかった。先代のハコスカが大人気だっただけに、その行く末はメーカに限らず多くのスカGファンが注目したところだ。しかし心配には及ばなかった。ケンメリのスカイラインというコピーで広くその名を知らしめた4代目は、瞬く間に大勢の新たなスカGファンを生み出すと同時に、翌年の1973年に2000GT-Rをシリーズ最高峰モデルとして追加することで、新たなスカG神話は頂点に達しようとしていた。

大人の、という言葉の裏づけを具

今人気のケンメリにとってもゴージャスなハイパーエンジン搭載。

憧れのケンメリGT-R
その精悍なエクステリアと
驚きのスペックを搭載した
カスタムモデルが存在する
“特別な旧車”は面白い!

text/K.Yamazaki 山崎和彦
photo/T.Sakurai 桜井健雄
取材協力/ロッキーオート



Yamahanの 実際どーなのよ!

ツインターボでスムーズな加速

2611のツインターボとはいえ、ストリートユースにおいては下から必要にして十分なトルクがあるので、ストレスを感じることはない。で、いざタコメーターの針を回らせば、そこは別世界。胸の空く加速を2速、3速と堪能すれば、アツという間にとんでもない高速クルーズを強いられる。楽しいぞ! 価格は要問い合わせ

お約束の快適装備にも注目

このコーナーではお馴染みのロッキーオートが自慢とする快適装備、パワステとクーラーもしっかりと装備されている。しかもそれがごく普通に、今の感覚で使えるところが嬉しい。軽熟のカスタム旧車入門にお薦めの1台だ

5速のエクステリアも公認済

強力なパワーブランドの塗装はもちろん、外観に至るまで全てが公認済。どうとうと安心して公道を走行することができる。これをベースに本格的にサーキットで遊ぶマシンに出かけていくのも面白いだろう



楽しい旧車はお任せ。



Rocky Auto (ロッキーオート)
〒444-0865
岡崎市明大寺大塚55-31
TEL.0564-58-7080
www.rockyauto.co.jp

東名高速の岡崎インターチェンジを降りて5分という、関東からも関西からもアクセスが可能なショップ。絶版車をオリジナルに忠実にレストアする高い技術を持ちながら、あえて今のニーズに合わせたコンセプトで“楽しい旧車”をプロデュースする。